

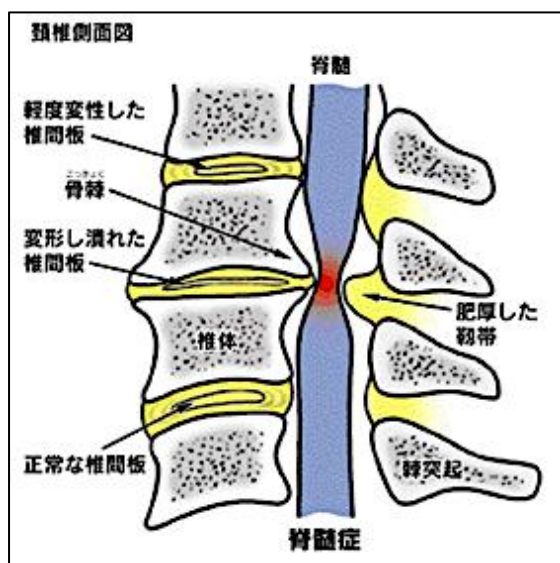
特集

手足が不自由になったのは、歳のせい？
～ 頸髄症について ～

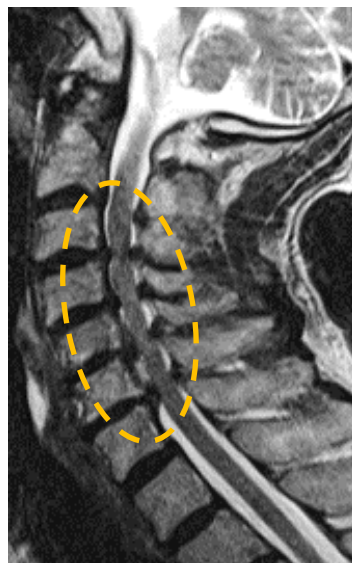
頸髄症（頸椎症性脊髄症）は、加齢に伴い変性した頸椎部で脊髄が圧迫されることにより四肢体幹の多彩な症状を呈する疾患です。頸椎の変性は万人に生じてくる変化ですが、欧米人と比較して日本人はもともと脊柱管が狭い個体が多く、脊髄障害が生じやすい傾向にあります。

初発症状としては、手足のしびれが多く、徐々に手指巧緻運動障害（ボタンのはめ外し、お箸の使用、書字が不器用に）や歩行障害（ふらつく、足がもつれる、なんとなく不自由など）が出現します。膀胱直腸障害（頻尿、残尿、尿もれなど）が併発することがあります。通常、緩徐進行性の経過ですが、転倒や頭頸部打撲など、軽微な外傷を契機に発症、急性増悪する場合があります。

高齢者の場合は、軽微な症状を自覚しにくく、「歳のせい」あるいは「夏バテ」として様子をみられ、知らないうちに症状が進行していくケースがあります。あるいは頭部 MRI など、脳の精密検査では異常指摘されず、頸椎病変が隠れていた例もあります。上記症状の患者様がございましたら、お気軽に当科へのご紹介や頸椎 MRI 評価をご検討ください。



日本整形外科学会 HP より引用



頸椎 MRI

【 担当 ： 整形外科 飛鳥井 光 】

診療実績

○受託検査実績

項 目	1月	2月
C T	24 件	29 件
M R I	36 件	37 件
超音波検査	13 件	15 件
その他検査	20 件	9 件

○診療実績

項 目		1月	2月
紹介患者数		298 人	260 人
逆紹介患者数		244 人	212 人
1日当り	入 院	174.9 人	180.8 人
患者数	外 来	454.2 人	434.4 人
病床利用率		67.3 %	69.5 %
救急搬送件数		114 件	89 件

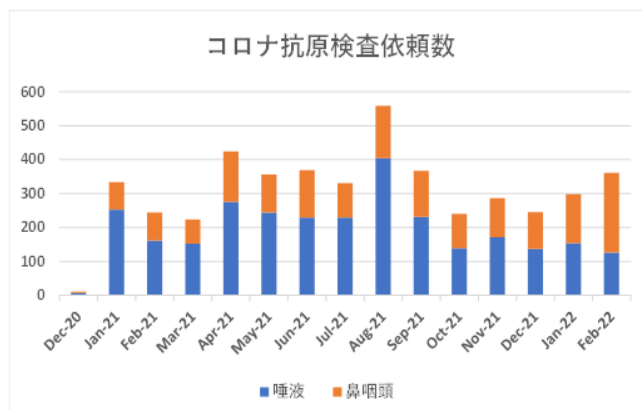
当院におけるコロナの検査法について

菊川市立総合病院検査室で新型コロナ抗原検査を始めて 2022 年 7 月で 2 年となります。当初は、富士レビオ株式会社の「エスプライン® SARS-CoV-2」という抗原簡易キットを使った定性検査を行い、陽性または、陽性疑いのある患者様の検体は中部衛生検査センターにて PCR 検査で確認試験を行っていました。

世間での新型コロナ陽性患者の増加に伴い、もっと早く正確に検査を行えるよう、2020 年 12 月より富士レビオ株式会社の「全自動化学発光酵素免疫測定装置ルミパルス G1200」を使用し、新型コロナ抗原定量検査の測定を開始致しました。

全国各地での緊急事態宣言と共に検査件数も増加しましたが、2021 年 9 月の静岡県緊急事態宣言解除と共に一旦減少傾向となりました。しかし、オミクロン株の台頭、第 6 波の発生、蔓延防止等重点措置発令となり、ここ菊川市内でも感染は爆発的に増加し、検査も再度増加となりました。

2022 年 1 月にルミパルス G1200 は「ルミパルス G1200PLUS」にバージョンアップ致しました。このルミパルスは、全国の主要空港でも新型コロナ抗原定量検査用に使用されている機器です。コロナの終息を願いつつ、更なる精度の高い検査を提供出来ますようこれからも取り組んで参ります。



エスプライン® SARS-CoV-2



ルミパルス G1200PLUS

検体処理能力：最大 120 テスト/時間

反応時間：30 分

同時分析項目数：最大 24 項目

【 担当：SRL検査室 新村 尚美 】

医師異動のお知らせ

新 任 (令和 4 年 4 月 1 日付け)

・内 科	丸山 正隆	医師
・内 科	山田 健太	医師
・内 科	鈴木 綾子	医師
・外 科	阿久津 友洋	医師
・整形外科	萩原 和弘	医師
・整形外科	村井 玲那	医師
・精神科	松本 拳	医師
・家庭医療科	小幡 健太	医師

退 任 (令和 4 年 3 月 31 日付け)

・内 科	白井 祐輔	医師
・内 科	平野 雄一	医師
・外 科	小坂 隼人	医師
・整形外科	野本 一希	医師
・整形外科	猿渡 幹	医師
・精神科	野島 悠有	医師



【 発 行 】

菊川市立総合病院 地域医療支援課 〒439-0022 静岡県菊川市東横地 1632

TEL：0537-35-2344 Eメール：renkei@kikugawa-hosp.jp

FAX：0537-35-2843 ホームページ：http://www.kikugawa-hosp.jp



©菊川市